



“まつれん”とは？

“松ヶ崎”に暮らすみんなの、
人と人とのつながり、
“連携”をつくるための冊子です。

発行元：
京都工芸繊維大学
松ヶ崎はっけん実行委員会
(代表：日向進 造形工学部門長)

編集印刷：
京都工芸繊維大学
松ヶ崎はっけん実行委員会

問合せ先：
e-mail:hello_matsuga@rilit.org
Fax: 020-4665-0404
(造形・佐々木研)

2006/08/09 発行

今後の予定

- 8月16日 送り火を体験・・・詳しくは裏面を参照！ お見逃しなく！！
- 8月26日 松ヶ崎夏祭・・・松ヶ崎独特の盆踊り「さし踊り」など、小学校と参加します。浴衣での参加をお待ちしています。午後5時から午後9時まで
- 9月29日 科学と芸術の出会い・・・工繊大の講義でピンホールカメラを作ります。大きなカメラで松ヶ崎の町の風景を切り取ります。
- 11月3日 松ヶ崎こどもフェスティバル

などなど、他にもいろいろな活動を企画しています。ぜひぜひ、参加してみてください！

松ヶ崎はっけん実行委員会発足！！

松ヶ崎は、北山通りを挟んで北側では、送り火のある妙法を始めとして様々な伝統を持った場所。対して南側は、大きなショッピングセンターや住宅地が立ち並ぶ振興住宅地。“古い”と“新しい”が真っ二つに向かい合っている町、まさに京都そのものといえます。

そんな古いと新しいが「松ヶ崎」、そして3年後には左京区役所を迎えることになる「松ヶ崎」の、今のつながりを作っていこう、明日への広がりを作っていこうということで発足したのがこの委員会です。

盛り上げ役として、大学生の起爆力を期待しています。

地域から愛される大学を目指すためには、まず地域との関係を持つことが必要不可欠です。

このような協力しあう関係を作ること、より良いまちづくりになって行くでしょう。

この委員会では、イベントなどを通して大学生と地域との関係を広げ、松ヶ崎全体のつながりを深めていくことを目的としています。



活動報告

7月24日

少年補導委員会と松ヶ崎小おやじの会の方々が主催する「飯ごう炊飯と金魚すくいの会」に参加しました。子供たちと遊ぶとなかなか新鮮な気持ちになります。楽しかった!!



7月31日

松ヶ崎はっけん実行委員会の立ち上げ会議を、大学で行いました。松ヶ崎小学校からは白石校長をはじめとし水野教頭、角井教務主務が参加してくださいました。会議では、小大連携を通じて小学生と大学生がお互いに学べる関係を目指すための様々な意見が出されました。

「きのう・きょう・あしたの松ヶ崎はっけん」趣意

松ヶ崎はっけん
実行委員会構成団体

松ヶ崎地区周辺においては、まちの諸要素の資源化或いは諸課題の確認という点について、現在必ずしも十分であるとはいえません。今後左京区役所庁舎を迎えるに当たって、地域各種機関、団体などと連携しながら、諸資源の発掘、認識、共有化を図り、環境整備に示唆を得る一歩的な取り組みの必要があるといえます。

今、京都工芸繊維大学の教員・学生チームを中心に小学校、PTAなど地域構成団体と連携してまちに接し、発見できた資源の発信を目指す活動がスタートし始めました。さらに各機関の協力を得て、教育プログラムの連携も図りながら、まち、ひと、こと、資源の共有化を通じた交流による今のつながりづくり、あしたへの広がりづくりを達成すること。これは結果として今後予想されている松ヶ崎区役所庁舎ゾーンを中心とした新たなまちの将来づくりにつながるものでもあるでしょう。

以上を目的に、松ヶ崎地区を一緒に歩き、語りあい、新たな発見を得る取り組みとしてここに「きのう・きょう・あしたの松ヶ崎はっけん」プロジェクトを発足させることに致しました。支援組織体制として、「松ヶ崎はっけん実行委員会」を準備いたしましたので、今後継続的に活動していくべく、皆様のご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

平成18年7月吉日

京都工芸繊維大学造形工学課程
京都工芸繊維大学写真部
京都工芸繊維大学学生会
松ヶ崎小学校
松ヶ崎小学校PTA
まちづくりサークル

メンバー募集

今季から始動した“小大連携プロジェクト”に参加したいという人を募集します。小学校と大学が一緒になって松ヶ崎をはっけんしていこうというものです。子供好きな人なら誰でも大歓迎。回生・学部は問いません。まずはこちらに、連絡してください。

e-mail:hello_matsuga@rilit.org
Fax: 020-4665-0404

ここでは、松ヶ崎にまつわる様々な話を紹介します！

ガッテン!

MATSUGASAKI



Level 1 五山送り火の妙法はいつから始まった!?

実は松ヶ崎の歴史において重要な人物なのです。時は鎌倉時代も終わりのころ、日像は日蓮宗の教えを説きに、京の都へやってきました。それまで松ヶ崎の村では比叡山延暦寺に属する天台宗を信仰していましたが、日像の教えを聞き、村人全員が日蓮宗に改宗したのです。その時こそが一三〇七年。日像は一村改宗を受けて、妙の字を山に書いたのです。次に書かれたのが『法』の字でした。これは江戸時代最初のころ、妙泉寺の末寺、下鴨大妙寺にいた日良というお坊さんが、東山の南面に書いたと伝えられています。

この日像というお坊さん。実は松ヶ崎の歴史において重要な人物なのです。時は鎌倉時代も終わりのころ、日像は日蓮宗の教えを説きに、京の都へやってきました。それまで松ヶ崎の村では比叡山延暦寺に属する天台宗を信仰していましたが、日像の教えを聞き、村人全員が日蓮宗に改宗したのです。その時こそが一三〇七年。日像は一村改宗を受けて、妙の字を山に書いたのです。次に書かれたのが『法』の字でした。これは江戸時代最初のころ、妙泉寺の末寺、下鴨大妙寺にいた日良というお坊さんが、東山の南面に書いたと伝えられています。

まず最初は『妙』の字でした。これは一三〇七年、今からおよそ七百年前、日像というお坊さんが、杖で西山の南面に書いて点火したと伝えられています。

では、妙法はいつ山に書かれたのでしょうか？

ただ、江戸時代初期に出された京都の案内書の中に、『大文字、船形、妙法が送り火として点火される』と書かれてあり、少なくとも江戸時代には送り火のひとつであったことは確かかなようです。

実は、送り火として点火されるようになった時期ははっきりしていません。

送り火としての始まりは不明

緊急速報!

来る8月16日、地元交流イベントが行われます。送り火のもと、地元伝統芸能である踊りを体験できるほか、もしかすると送り火を間近で見られるかも!? このチャンス、逃す手はありません!

先着順で、定員に達し次第、受付を終了させていただきます。申込みは下記連絡先へ。氏名を忘れずに入れてください。追って、ご連絡いたします。
e-mail:hello_matsuga@rilt.org
Fax. :020-4665-0404

おまけの第3巻

妙法送り火の手順は?

① 8月16日、朝早くから割木を山に運んで点火の準備。

火床は妙法とも鉄製受皿を使用し、松割木を井桁に積み重ねます。火床形式は違えど、割木の積み重ね方は他の山でも同じです。

② 午後8時頃、簡易保険局屋上からの合図で点火が行われる。その際、妙の山で読経が行われる。

③ 点火終了後の午後9時頃から、湧泉寺で題目踊、さし踊が催される。

この踊りは他の山では見られないもので、松ヶ崎独特の行事です。ちなみに、点火前日の15日にも、午後8時から地元の人々による踊りが行われます。